

奈良・平城京跡左京三条一坊十二坪

- | | | |
|---|---------------|----------------|
| 1 | 所在地 | 奈良市三条大路二丁目 |
| 2 | 調査期間 | 一九九四年（平6）六月～八月 |
| 3 | 発掘機関 | 奈良県立橿原考古学研究所 |
| 4 | 調査担当者 | 楠元哲夫・清水康二 |
| 5 | 遺跡の種類 | 都城跡 |
| 6 | 遺跡の年代 | 八世紀 |
| 7 | 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | |

調査は大規模小売店舗建設に伴う事前発掘として行なわれた。事業面積七九〇㎡のうち、建物が建設される部分を約二一〇㎡



(奈良)

○㎡を調査した。事業地は左京三条一坊十二坪のほぼ西半分に該当し、東一坊坊間路と三条大路の一部が入っている。調査はこのうち主に十二坪の北西四分の一について行ない、補助的に三条大路・東一坊坊間路について拡張発掘した。

まず十二坪の四至を決める条坊遺構について記すと、東一坊坊間路は東西の両側溝を検出し、路面幅は約八〇尺である。西側溝の幅は約七m、深さ二m、東側溝はそれに比べて規模は小さく幅約三m、深さ五〇cmである。東側溝からは土器の他に目立つた遺物はないが、西側溝からは馬歯・馬骨、和同開珎、横櫛、斎串、土馬、銅製飾金具、帶金具などが出土している。今回の木簡もこの西側溝から出土したものである。三条大路については、幅約三m、深さ約一mの北側溝と路面の一部を四mほど検出したのみである。

坪内の占地の変遷については、遺物整理が終了していないので流動的であるが、およそ五時期の変遷を考えている。初期は一坪以上の占地であったと考えられ、二間×五間の東西棟で南に庇のつく大型の建物などがこの時期に属するものと考えられる。そして坪内は三時期目以降に分割されたと考えられ、奈良末にかけてさらに細分化が進む状況がうかがわれた。

8 木簡の积文・内容

- (2) □

つゝの国の字は、一字目は「國」、二字目は「国」と字体を異にする。



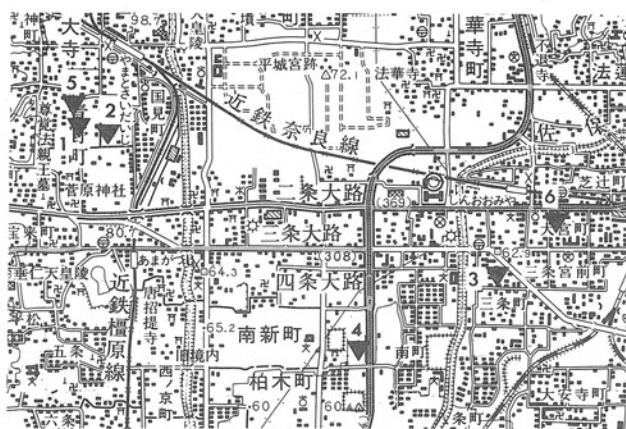
(2)



(1)

(2)は文字の左端が若干残るのみであり判読できない。

(1) 清水康二
和田 萃・鶴見泰寿



奈良・平城京跡

所在地

一・二 奈良市菅原町、三 同市三条栄町、四 同市柏木町、五 同市青野町、六 同市大宮町三丁目

調査期間

一 一九九四年(平6)四月～九月、二 一九九四年六月～一九九五年三月、三 一九九四年一〇月～一二月、四 一九九四年一月～二月、五 一九九四年二月～一九九五年三月、六 一九九五年一月～二月

発掘機関

奈良市教育委員会・奈良市埋蔵文化財調査センター

調査担当者 一 中井公・久保邦江・原田憲二郎、二 中井公・